



学校だより小雀

令和3年2月22日発行
3月号
横浜市立小雀小学校

ホームページ：<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kosuzume/>

残心（終えても心が途切れない）

校長 今野 敏晴

そんな時代もあったねと いつか話せる日がくるわ

あんな時代もあったねと きっと笑って話せるわ 「時代」 作詞・作曲 中島 みゆき

テレビ番組で中島みゆきさんの「時代」という曲が流れていました。平成生まれの若者に、昭和ポップスの歌詞が心に刺さっているという内容の番組でした。私も若いころ聞いていた曲なので、時代と共に色あせないものもあると感じました。そして、このコロナ禍の状況が早く改善しないものかと願いました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症のために、様々なことが制限されてきました。コロナ関連のニュースを見るたびに、この状態はいつまで続くのかと不安は消えません。「あのころは、みんなマスクをしていたね。」と笑い合えるよう、今しばらく感染症対策にご協力をお願いいたします。コロナ禍の時代も中島みゆきさんの「時代」の歌詞もきっと皆さんの心に残っていくことと思います。

「残心」という言葉があります。日本の武道や芸道において用いられる言葉で、動作が終わった後でも、少しも油断することなく、次に起こる変化にすぐに対応できるようにする心の構えと準備のことです。また、残心は、すべての結果、物事の総決算であることから残心にいたるまでの一つひとつの動きを振り返ることも意味するそうです。この「残心」は、「仕舞う」「余韻を残す」といった日本の美学や日常の立ち居振る舞いとも関連する言葉です。道具を使った後、きちんと片付ける、トイレのスリッパなど次に使う人が履きやすいように考えて脱ぐ、ドアやふすまや障子など閉め忘れたり、大きな音を立てたりしないなど「残心」の意識が必要で、しつけや教育活動にも活かされています。

茶道では、「余情残心」という言葉があり、茶会において、客が退出したとたん、大声で話し始めたり、急いで中に戻ってさっさと片づけを始めたりするべきではないと論じています。主人は、帰っていく客が見えなくなるまで、ずっと見送ります。その後、主人は一人静かに茶室に戻って茶をたて、今日と同じ出合いは二度と起こらないと「一期一会」をかみしめる、この作法が「余情残心」だと言います。

物事をやり終えた後、「終わった」とすぐに気持ちを終わらせてしまうのではなく、取り組んできたときの一生懸命の「心」をしばらく「残」す。そうすることにより、今までしてきたことが確かなものになり、さらによい結果となってでてくるものだと思います。そして、「残心」の心構えをもつことが、人を思いやる心や相手のことを考える心に自然と繋がってくるのではないのでしょうか。

子どもたちには、「今の学年が終わった」という気持ちで終わりにしてしまうのではなく、夢や目標に向けて本当にかんばれたのか、本当に友達に思いやりの気持ちで接することができたのか、笑顔と満足の花を咲かせられたのか、努力をしてきた「心」を「残」して静かに振り返ってほしいと思います。来年度への進級・進学的心構えが自ずと芽生えてくるはずですよ。

ご家庭では、「あゆみ」をもとに今年一年の学校生活を子どもたちと一緒に振り返って励ましていただくと共に日常の片づけなどの振る舞いが次につながる準備であることや次の人が使いやすくなる気遣いであることを確認していただければありがたいです。

末筆になりましたが、コロナ禍にあっても今年度の本校教育活動への深い理解と多大なるご協力に感謝いたします。一年間本当にありがとうございました。